あり思第五巻
連載電書01

オープニング草稿

オープニング

とおい、とおい、とおーい、
未来の話。

「ワヨンって子が　いたんだよ」

ワヨンは普通の子とは違って、
白い髪で青い瞳を持つ女の子で、
おじいちゃんと二人で暮らしていました。

ワヨンは白いヒゲのおじいちゃんが大好きで、
「じいちゃ」と呼んでいました。

ワヨンはじいちゃから、
「お前のお母さんは遠くへ行ったんだよ」
と言われていました。

ワヨンはいつか、遠くへ行った「かあちゃ」
を探しに行きたいと思っています。

ワヨンはじいちゃから、不思議な楽器を習っています。
それは音を消すことができる楽器です。

この音を消す楽器で、音の怪もの－おとのけもの－と呼ばれる
恐ろしい怪物を退けるのです。

ワヨンの家はそうしたことをする音師－おとし－
と呼ばれる一族なのです。

いずれ、ワヲンも
音師になるのでしょうか？

ある日、ワヲンの住む村に
賑やかな歌舞音曲を奏でる
楽団がやってきました。

いつもはじいちゃに楽団の催しを
見物するのを止められているワヲンですが、
今回は黙って楽団を見に行きました。

楽団の中心には、美しい黒髪の女性が双竪琴－ダブルハープ－で
ワヲンが聴いたこともない曲を弾いていました。

美しい黒髪の女性、その人はトニクと呼ばれていました。

楽団は村の近くの洞穴に泊まっています。
ワヲンはこっそり、トニクさんに会いに行きました。

とても、トニクさんに惹かれるものがあったからです。

トニクさんもワヲンを見て、とても懐かしい気持ちになりました。
でも、それはどうしてなのか、トニクさんにはわかりません。

ワヲンはトニクさんの話を聞き、トニクさんはワヲンの話を聞きました。

トニクさんには、昔の記憶がありません。
ワヲンの住むこの村で行き倒れていたところを助けられ、
旅回りの楽団に拾ってもらったというのです。

ワヲンはじいちゃと暮らしていることと
音師になって遠くにいったかあちゃを探しに行きたいことを
トニクさんに話しました。

そんなワヲンの身の上話を聞くとトニクさんは
ワヲンが不憫でなりませんでした。

この子は自分の母親が亡くなっているだろうことを、
幼くてまだわからないのだ、と思いました。

トニクさんは自分が持っていた奇妙な形の金物を
水に浸すと、水の膜が張った楽器をつくりました。

「これは水管楽器と呼ばれるものなの。
あなた、吹いてごらんなさい」
ワヲンはトニクさんに渡された楽器で音を奏でました。

水の楽器を吹くとトニクさんも
双竪琴で曲を弾き始めました。
それはとても哀しい曲になりました。

二人のところに団員の人がきました。
「ワヲンちゃんのおじいさんが、
団長のところにみえられているわよ」

「ええっ？」

ワヲンはいいつけを守らなかったことで、じいちゃに
叱られると思って、急いで村に戻りました。

急いで、家に戻ろうとしたワヲンですが、
なんと、村が異形の怪物に襲われています。

音の怪ものです！

いつもは、じいちゃが音の怪ものを退治しますが、
今は洞窟の方にいて、それもできません。

音の怪ものは村中のものをなぎ倒して
暴れまわり、手がつけられません。

ワヲンは意を決して、音見眼鏡と不思議な楽器を
持って、暴れる音の怪ものの元へ向かいます。

音の怪ものがうなり声をあげて吠えると、
周りのものが爆ぜるように壊れました。

村人たちは何が起きたのか、わかりません。
でも、音見眼鏡をかけたワヲンには見えます。

色のついた音が音の怪ものの口元から放たれ、
その音がものに触れて、爆ぜて壊れているのが
音見眼鏡を通して見えます。

ワヲンは不思議な楽器を構え、色のついた音と
同じ色の弦を弾くと、色のついた音は掻き消えた……

と、思うと白い球体に変わり、音の怪ものへ向かって
ものすごい速さで飛んでいきます。

球体をぶつけられた音の怪ものはあまりの衝撃によろけます。
無音奏者－むおんそうじゃ－ならではの、
音を持って音を制する、です。

でも、音の怪ものもただでは、倒されません。

ワヲンは持ち直した音の怪ものの
激しい攻勢にさらされて、
つまずいてしまいました。

そこへ、音の怪ものが止めとばかりに、

色のついた音である破壊擬音―はかいぎおん―を
放ちながら、おぞましい声をあげました。

破壊擬音がワヲンを襲います！

双竪琴のきらびやかな音が鳴りました。
すると、ワヲンに向かっていた破壊擬音は消え、
白い球体が音の怪ものに向かっていきます。

「ワヲン！　立つのよ。
あなたは弱い子じゃない」

トニクさんも無音奏者だったのです。
そして、ワヲンの危機にやってきたのです。

音の怪ものは最後の力を振り絞って襲い掛かってきます。
しかし、二人の無音奏者にかかっては音の怪ものも分が悪く、
ついには、打ち倒されます。

洞窟にいたじいちゃは、ワヲンとトニクさんの元にかけつけました。

「お久しぶりです」と、トニクさんはじいちゃに頭を下げました。
じいちゃはトニクさんに、「うちのワヲンを助けてくれて、ありがとう」
と言うと、トニクさんはこう言いました。

「あの子が　もしも　私の妹だったら
もしも　私の娘だったら
そう思うと、いてもたっても　いられませんでした」

じいちゃは思い出します。

昔、白き者と若い自分の娘が出会ったこと。

白き者は奇妙な形の金物を持っていたこと。

やがて、白き者と娘の間にワヲンが生まれたこと。

白き者が招きよせたように、音の怪ものが現れ、村を壊滅させたこと。
白き者が息絶えると、音の怪ものは去るが
災いを齎した白き者の妻として、娘を追放することに村中が決めたこと。
二度と、村のことを思い出さないように、
音師の秘音を娘に聞かせ、記憶を封じ楽団にあずけたこと。

「どうかなさいましたか？　サブドミナントさん」
トニクさんは、物思いにふけるじいちゃを怪訝そうに見ていました。
「いいえ。なんでもない。なんでもない」

楽団が村を去る日、トニクさんはワヨンに会いにきました。
トニクさんは、あの奇妙な形の金物をワヨンに握らせました。
そして、ワヨンの手を強く握ると、自分の手を離しました。
ワヨンは驚いて、トニクさんを見ました。

トニクさんはワヨンに微笑みかけています。
「トニクさん、これ、大切なものなんでしょう?」
「いいの。それはあなたに持っていてほしいの」
「おかあちゃんに、いつか会えるといいね、ワヨン」
「うん。きっと、かあちゃに会う！」
と言って、ワヨンは笑いました。
それから何日かしたある日、
ワヨンはいいことを思いつきました。
音師の格好に着替えて楽器を持ち、
「かあちゃを探しに行ってきます」

とじいちゃに置手紙を残して、

ワヨンは村を飛び出ました。

とりあえず、トニクさんの楽団を追ってみることにします。

楽団に加われば、いろいろな場所に行けて、
かあちゃのこともわかるはずと
ワヨンは思ったからです。

ワヨンの冒険が始まる。

リンク

https://www.pixiv.net/novel/show.php?id=964529

0

0

0

00

諸事情により
ストーリーパートを
欠番にすることにしました

結局　本当にワヲンが
会いたい人には
会えないことには
変わりありません
それは仕方なかった事なのです

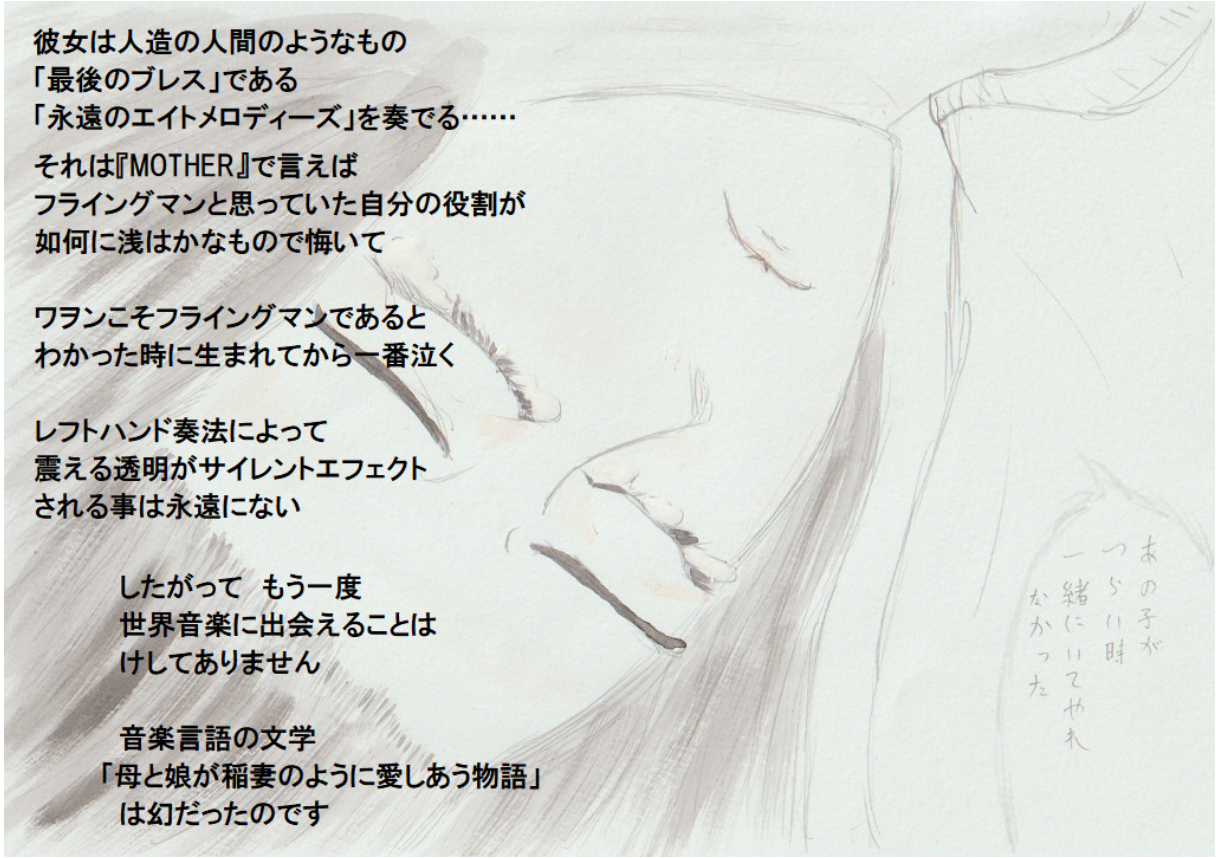
ナンネルが奏でた彼女の
娘に等しい作曲された曲

シューベルトは未完成作であっても残っていますが
もしかしたら全時代最高の曲かもしれない
ナンネルの曲は聞く事は出来ない

それもまたありえない未来の思い出なのです

ワヲンは救世主さまなのですから
昇天しなくてはいけません

クライストムービーのおはなしを
ゲームストーリーにする以上
それは避けられません

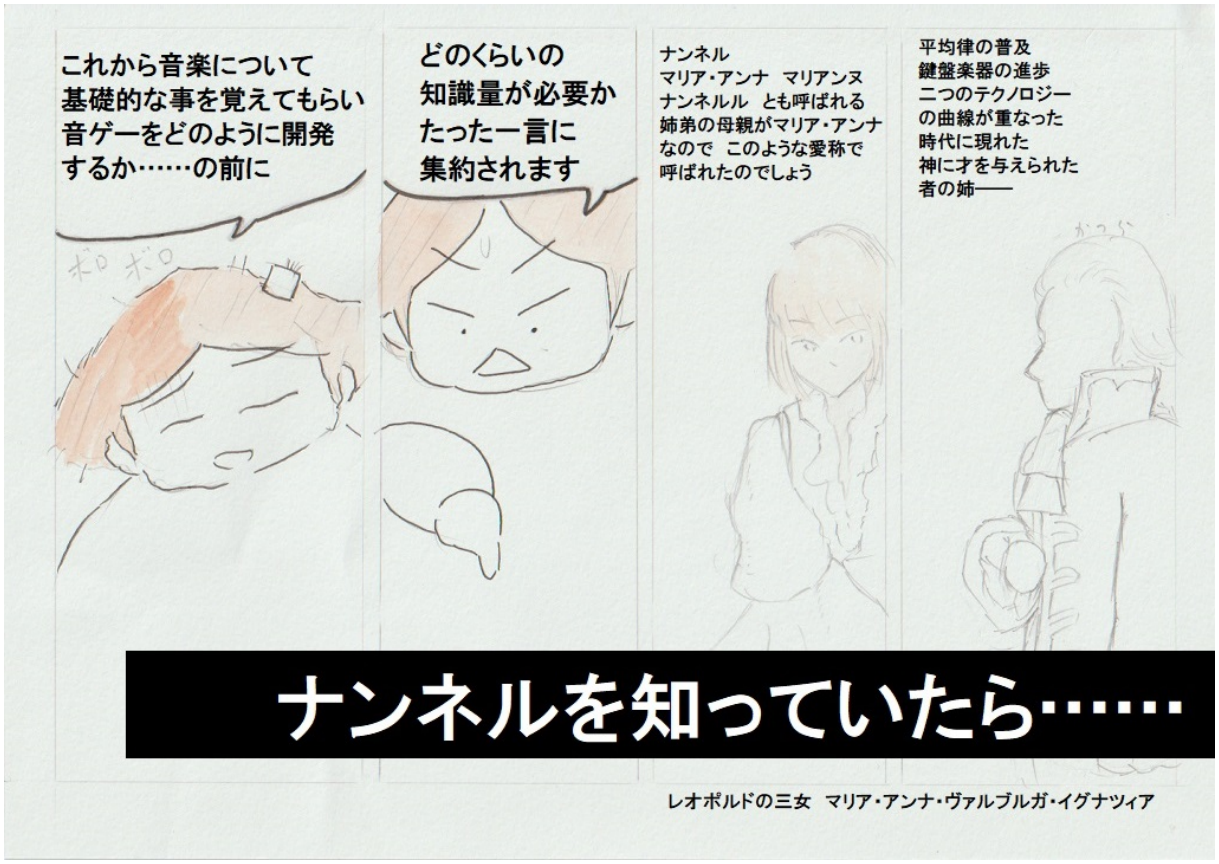

彼女は人造の人間のようなもの
「最後のブレス」である
「永遠のエイトメロディーズ」を奏でる……
それは『MOTHER』で言えば
フライングマンと思っていた自分の役割が
如何に浅はかなもので悔いて
ワヲンこそフライングマンであると
わかった時に生まれてから一番泣く
レフトハンド奏法によって
震える透明がサイレントエフェクト
される事は永遠にない
したがって もう一度
世界音楽に出会えることは
けしてありません
音楽言語の文学
「母と娘が稲妻のように愛しあう物語」
は幻だったのです
あの子が
つらい時
一緒にいてやれ
なかった

0-00-02.jpg

0

0

01


これから音楽について
基礎的な事を覚えてもらい
音ゲーをどのように開発
するか……の前に
どのくらいの
知識量が必要か
たった一言に
集約されます
ナンネル
マリア・アンナ　マリアンヌ
ナンネルル　とも呼ばれる
姉弟の母親がマリア・アンナ
なので　このような愛称で
呼ばれたのでしょう
平均律の普及
鍵盤楽器の進歩
二つのテクノロジー
の曲線が重なった
時代に現れた
神に才を与えられた
者の姉――
ナンネルを知っていたら……
レオポルドの三女　マリア・アンナ・ヴァルブルガ・イグナツィア

0-01-01.jpg

小林秀雄は
「モォツアルト」
でヘンリー・ゲオン
のK516は
悲しみが走っている
を引いています
モオツァルト
小林秀雄
新潮文庫
意味深長な文庫
悲しみ
これは憶測ですが
ナンネルが
悲しんでいるの
ではないでしょうか
ナンネル演奏の
チェンバロの原曲を
ソルフェージュし
ヴォルフェルが
四重奏に編曲したと
したらナンネルの
悲しみが走っている……
何も問題ありません
伝聞では「透明な悲しみが走っている」とされる。

0-01-02.jpg

ここまで読めば説明不要、モーツアルトは親しい人にヴォルフェルと呼ばれていた。

＊ そのために超早熟で音楽家の中でも間違いなく変人の部類である

ADHDや
サヴァン症候群＊
と思われる

ヴォルフガングは
一度聞いた曲を
ずっと覚えている
はず

後に「ミゼレーレ」
を一度聞いただけで
ソルフェージュし

時の教皇に称えられ
黄金拍車勲章賜る

この矛盾は
とくにトランペットの
音を聞いただけで
ヴォルフェルは
蒼い顔になってしまう

有名な耳が良すぎる
逸話が残されており
幼い頃作成した
交響曲(K16)に
トランペットの
パートがあるのは
不自然極まり
ないのですが……

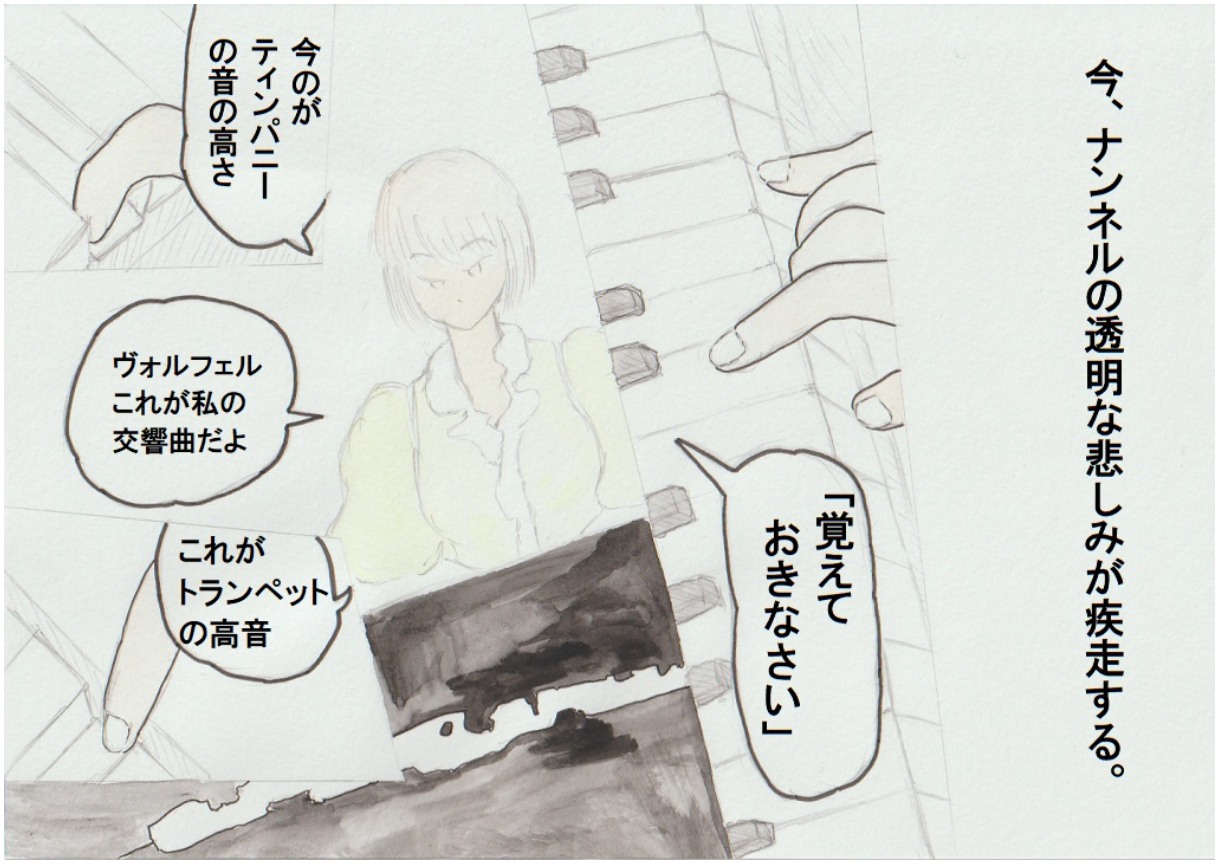
ナンネルは後に
生前のモーツァルト
の逸話を尋ねられた時

「ティンパニーと
トランペットで
交響曲を作曲していた」
という発言が残していますが

交響曲(K16)には
ティンパニーと
トランペットの
パートは無い

資料が無いので沙翁浪漫の法王印　死んだら青薔薇最終戦争が起きる

これを五番目のありえない未来の思い出であるサイレントエフェクトされた交響曲(K16)しかないと例えるのはあまりにも酷である


今、ナンネルの透明な悲しみが疾走する。
「覚えておきなさい」
今のがティンパニーの音の高さ
ヴォルフェル これが私の交響曲だよ
これがトランペットの高音

0-01-04.jpg

0-01-05

マリア・アンナ・ヴァルブルガ・イグナツィア
ことナンネル　もう一人のモオツアルトに捧ぐ

0-01-05.jpg

0-01-06

音がしないが鳴り響く

0-01-06.jpg

0-01-07

サイレントエフェクト

静音効果

0-01-07.jpg

0-01-08

彼はやがて、腰から革袋をとって彼女に差し出した。
「これをさしあげよう。持っていきなさい」
「これは？」
女は老人の手から革袋を受け取りながら、けげんそうにたずねた。
「今はほろびた。遠い星の土が入って入っとります。これを持って行きなさい」

白き異邦人　筒井康隆
エピタフ

0-01-08.jpg

0-01-09

私は歌
全時代最高

私の歌
全時代最高

0-01-09.jpg

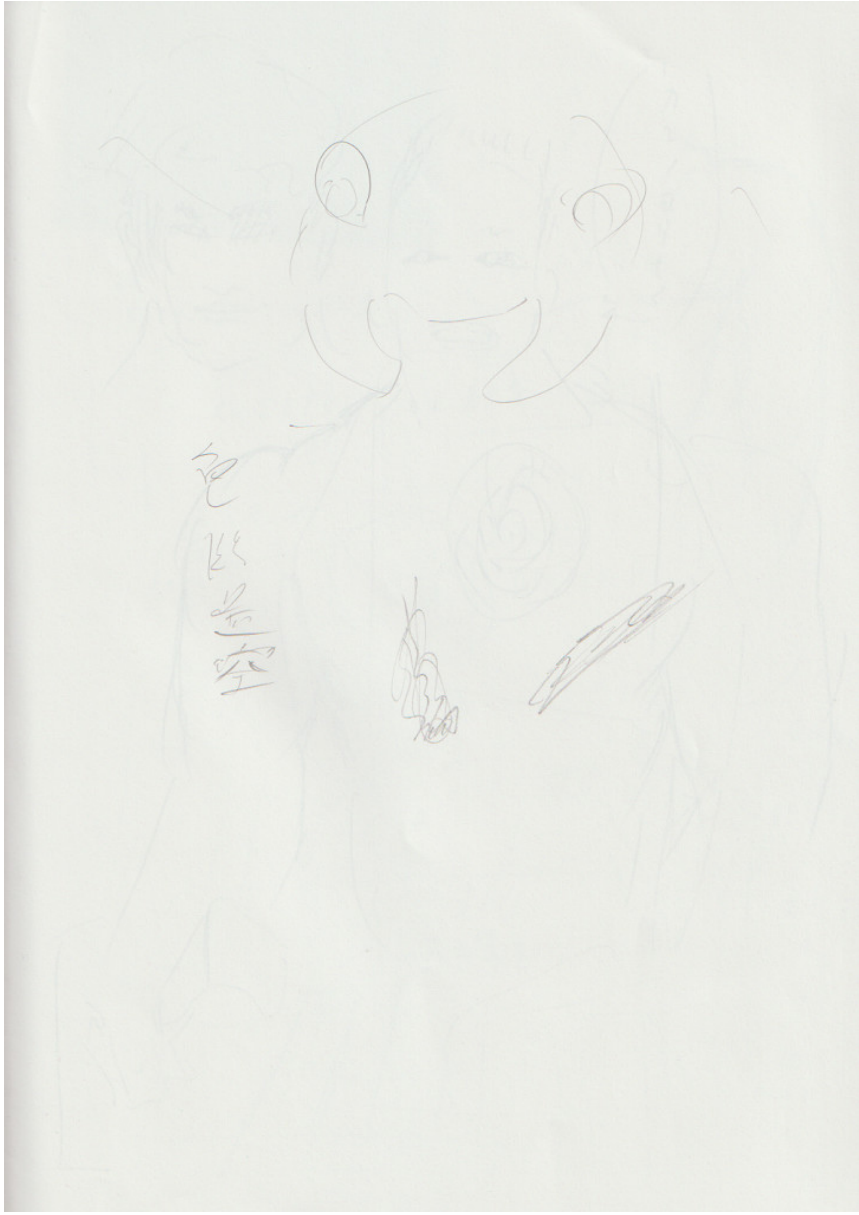
01

fghting of The soundmaster's

fos01.jpg

fos02.jpg

fos03.jpg



fos04.jpg

扉絵案集

tobiraEidea 000.jpg

3
-
01

もちろんビクター
のロゴの
ヒズ・マスターズ・ボイス
彼のご主人様の声
趣向である
シー・サムズ・ボイス
を
ねぇ聞いて　ぼく
お兄ちゃんに
なるんだよ

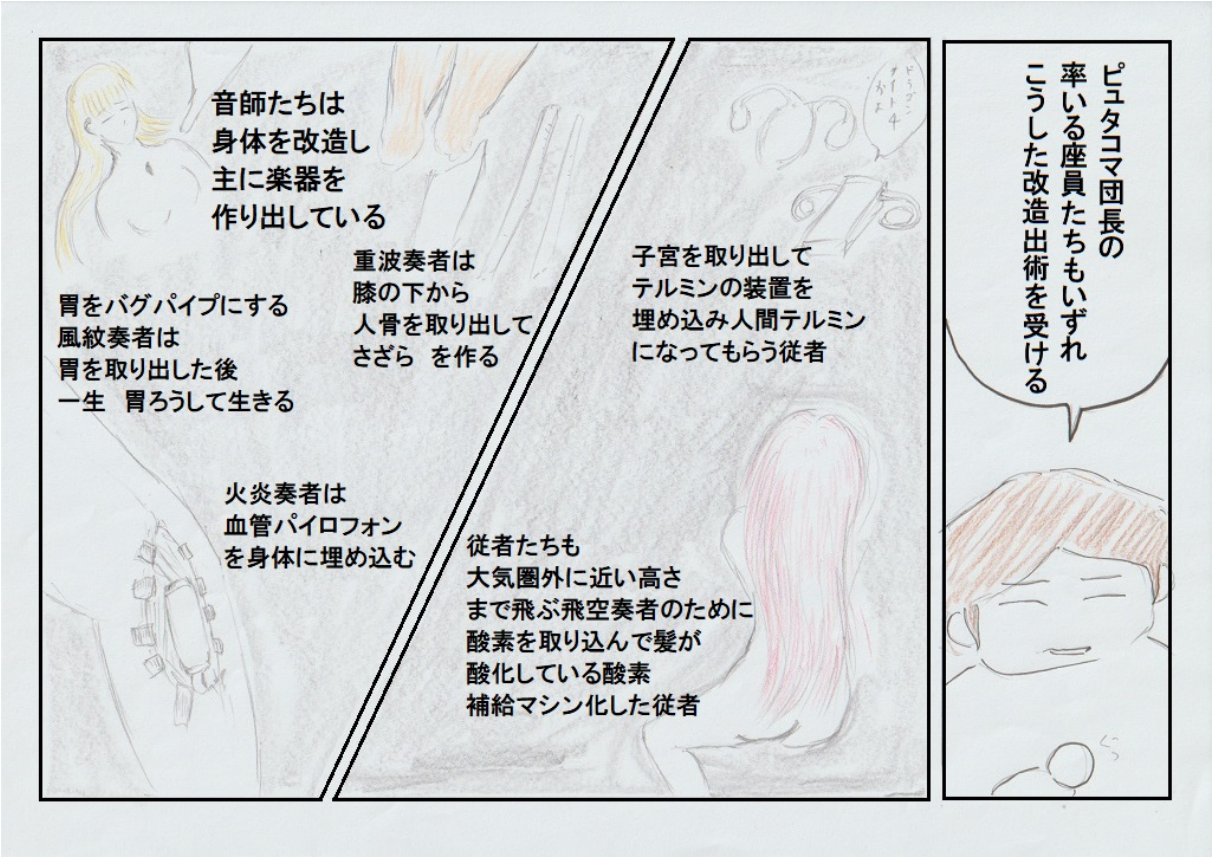
kesai01.jpg

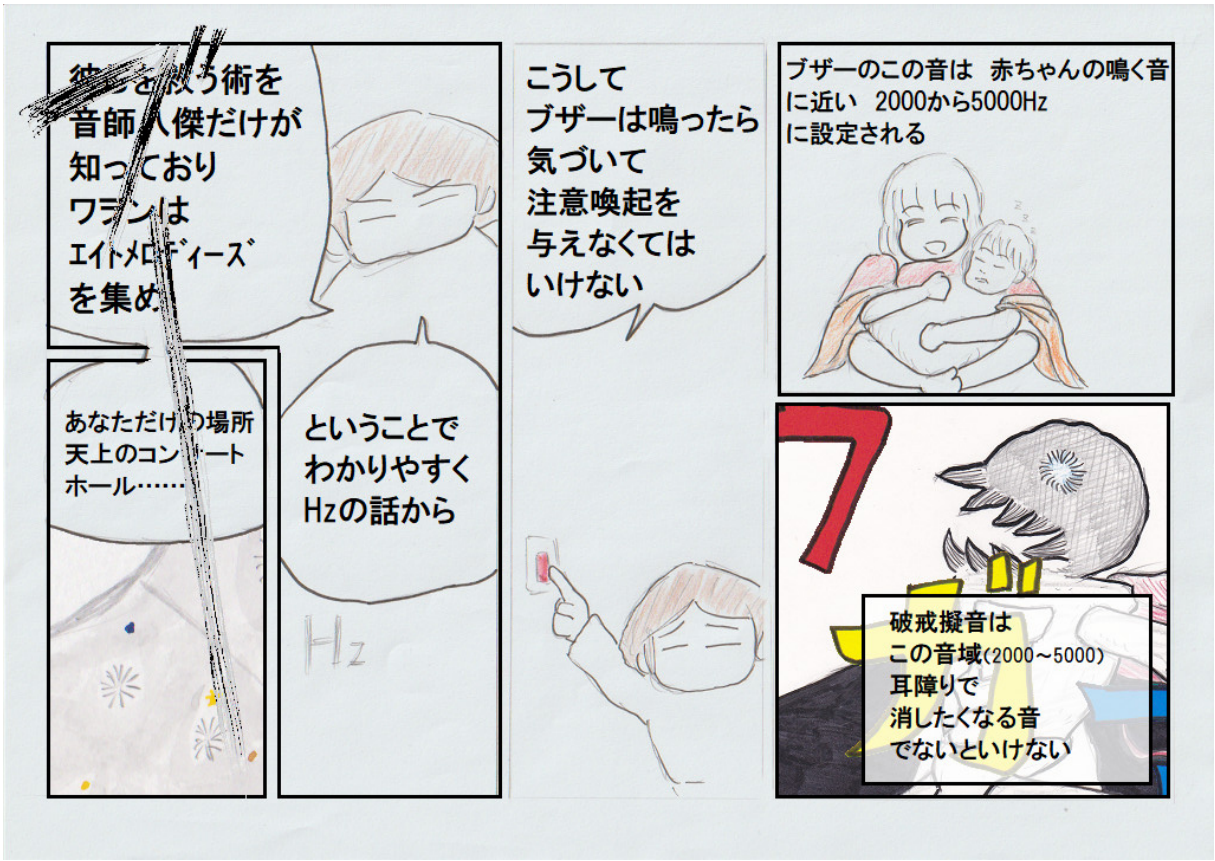
うっ
うっ
ううう
ママしゃん
どかしましたか？
お前に
二人目が
出来てから
あれ
ばっかりだね
お兄ちゃんに
なるんだ
生まれてくる
赤ちゃんは
ボクの初めての
子供の友達なんだ

kesai 02.jpg

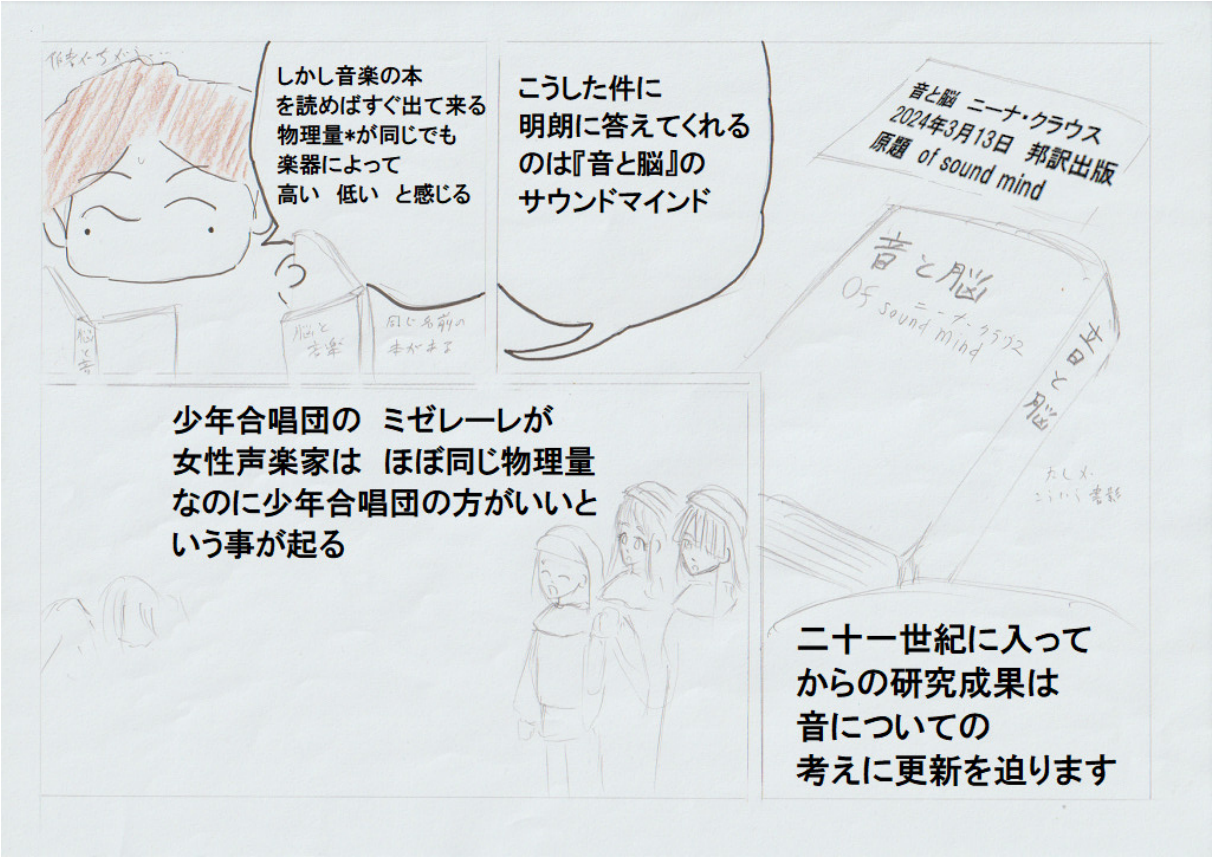
ママしゃん
泣いてるの？
なんでもないの
大丈夫よ
ケモノさん
あなたは
私たちの
無理の証ね

3
-
02

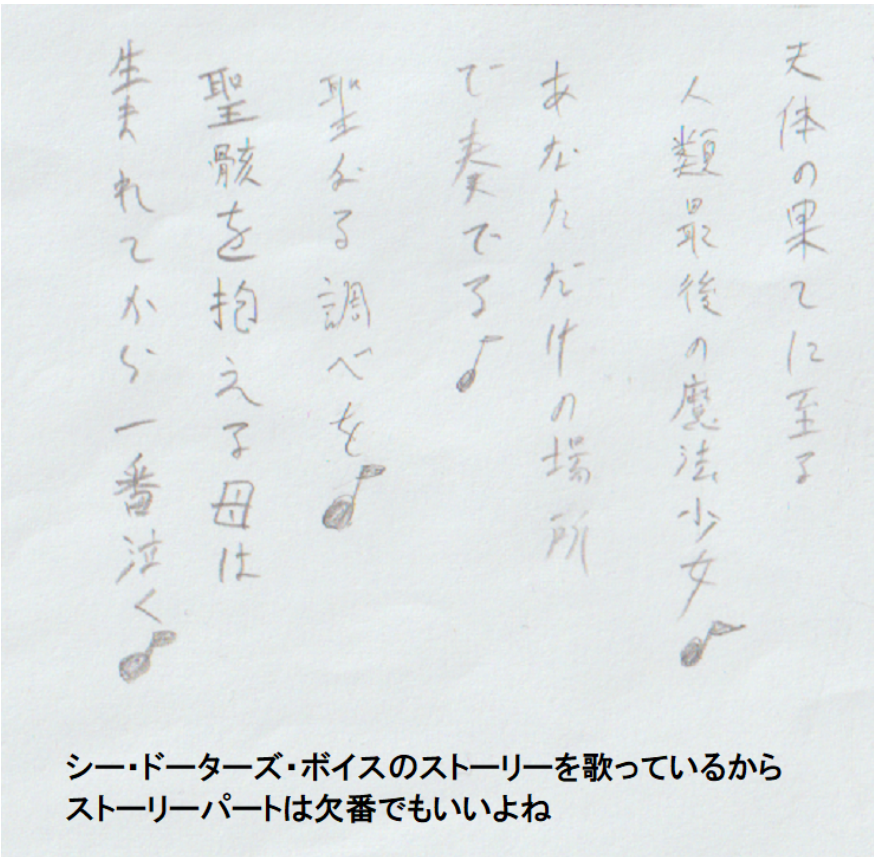

ピュタコマ団長の
率いる座員たちもいずれ
こうした改造出術を受ける
音師たちは
身体を改造し
主に楽器を
作り出している
重波奏者は
膝の下から
人骨を取り出して
さざら を作る
胃をバグパイプにする
風紋奏者は
胃を取り出した後
一生 胃ろうして生きる
火炎奏者は
血管パイロフォン
を身体に埋め込む
子宮を取り出して
テルミンの装置を
埋め込み人間テルミン
になってもらう従者
従者たちも
大気圏外に近い高さ
まで飛ぶ飛空奏者のために
酸素を取り込んで髪が
酸化している酸素
補給マシン化した従者



SHINgakki 11.·jpg


しかし音楽の本
を読めばすぐ出て来る
物理量*が同じでも
楽器によって
高い　低い　と感じる
こうした件に
明朗に答えてくれる
のは『音と脳』の
サウンドマインド
音と脳　ニーナ・クラウス
2024年3月13日　邦訳出版
原題　of sound mind
音と脳
of sound mind
ニーナ・クラウス
少年合唱団の　ミゼレーレが
女性声楽家は　ほぼ同じ物理量
なのに少年合唱団の方がいいと
という事が起る
二十一世紀に入って
からの研究成果は
音についての
考えに更新を迫ります

だって ゴトヲヒですから

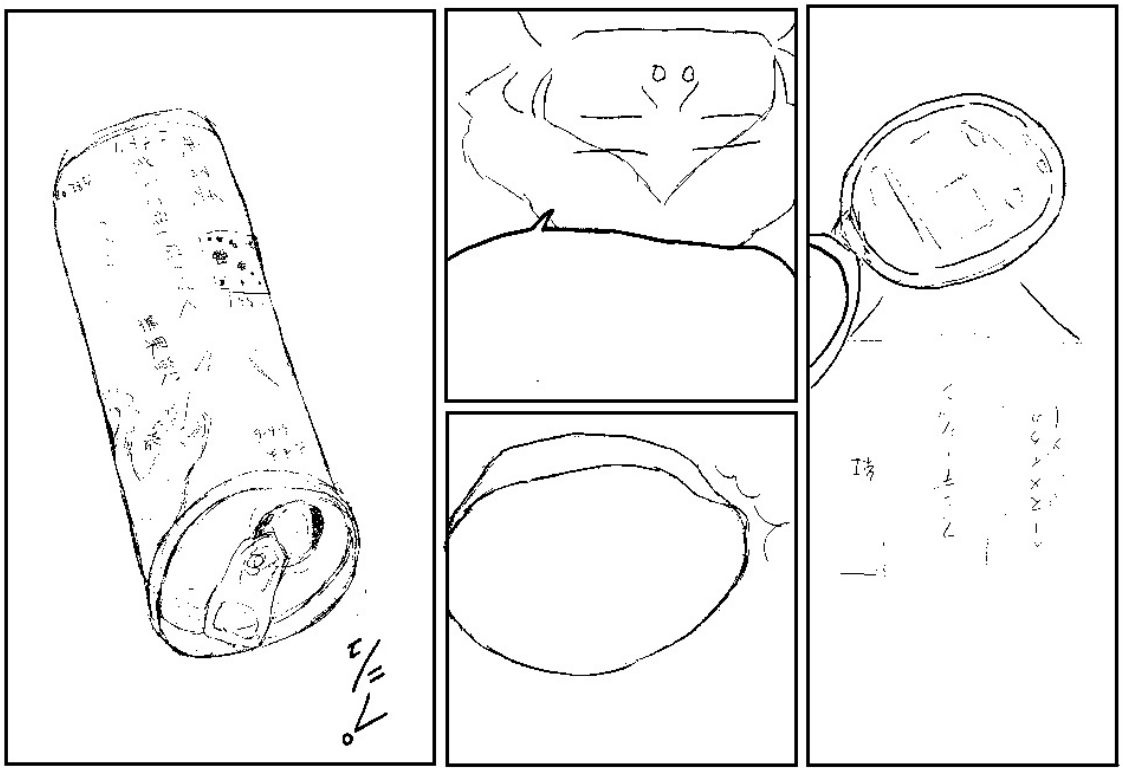


シー・ドーターズ・ボイスのストーリーを歌っているから
ストーリーパートは欠番でもいいよね

プロゲーマー・ウメハラ
の伝説的連続ﾌﾞﾛｯｷﾝｸﾞから
逆転勝利　はくり返されて
語られていますが
うおおおお
ワー
オオオオオオ
本人の弁では会場が
湧いてしまい
オーディエンスの
歓声が騒音となり
耳でタイミングをはかる
ためにSEが聞こえなくなって
しまうのはプレイに
差し支えると発言
これは正しい
視覚より
耳の判断が早い

十四ページ目と
十五ページは
この電子書籍では
不掲載にするけど
ストーリーパートが欠番だから
カンノヨウセイだよね

SHINgakki14＋15.jpg



SHINgakki 16 : p.8

こうした事を鑑みると
PONGの
ノラン・ブッシュネルは
優れたサウンドデザイナー
頬を膨らませて内側から
指で弾くと鳴る「ポン」
ポン
これをプレイヤーが
操作する
ラケットが弾を
弾く時に鳴る
スペースウォーの
市場撤退の失敗を
踏まえて
アルコールを出す
盛り場に
置かれる筐体
だから
酔っ払いが
ラケットが弾を
弾く時
子気味いい音を
鳴らしたくなる
ようにした――
らしい
音が出る物体は
意図しまいが
意図しようが
音がデザイン
されている
あるいは
逆と考えるべきか
テレビ番組「新・電子立国」でも指を口内に入れて頬を鳴らした

03--02-18 EXTRA

批評的コラム
原ピンポンのビデオゲーム化であったのか

はっしょう
発祥

テーブルテニスの発生は、葉巻タバコの箱をラケット代わりにして、葉巻やワインのコルク栓を切ってボール代わりにして、テニスの要領でテーブルにワンバウンドさせる原ピンポンを、酒の席という緩いフィールドから会場となりテーブルも専用台とし、ピンポン球という使用球の設定やラケットの規制で競技化（カイヨワのいうルール化）を施して、スポーツにしたのが卓球（テーブルテニス）ことピンポン。

これに電子処理化を経て、アルコールを摂取している人々にも遊べるようにバイディアのある原ピンポンに戻し、「葉巻やコルクを切ってボール代わりにする」「ラケット代わりの箱」を作る等の手間（機会費用）を省いているのがPONG。

の歴史

機会費用より等価交換以上であれば、酔っ払いたちはコインを筐体に投入する。

さて、ノラン・ブッシュネルの「頬を内側から指で弾く音」は、そもそも宴席文化で興が乗って「頬を内側から指で弾く音」を鳴らす習性が欧米人にはあったのではないか？

ならい

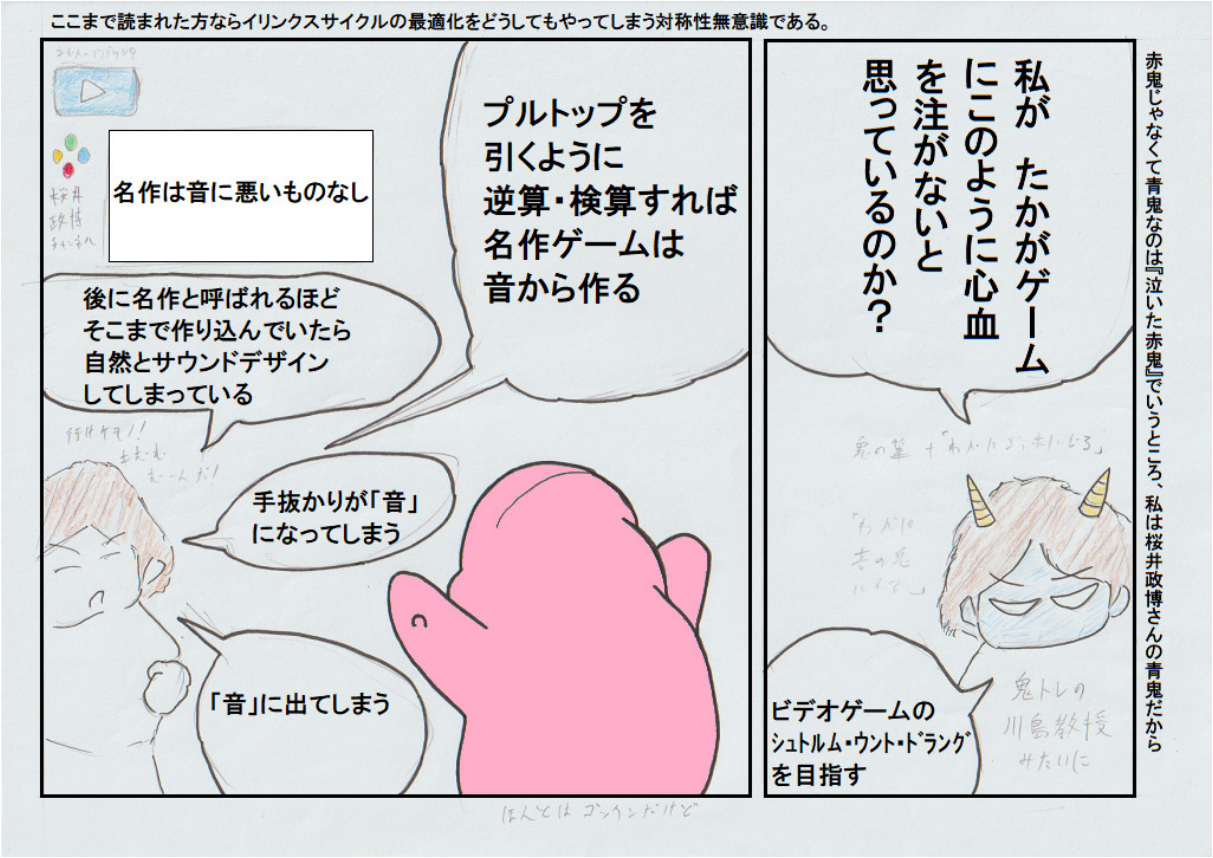
そもそもワインびんにフタをしているコルク栓を開けた音は「頬を内側から指で弾く音」と同じ音がするから、コルクという材料が選ばれたのか？ 元々はアルコール揮発でも徐々にビンから気体が抜ける素材は、コルク以外でも良いのに、コルクが選ばれているのは“頬を内側から指で弾く”ような子気味いい音が鳴るから選ばれたのではないのか？

これが定説とされるという筆者

さらに「ビアポンの電子筐体化」であるか、「温泉卓球をするのはハレの日にする宴席文化の流れ」などのPONGの詳細なカルチュアル・スタディが待たれる。

文字数が多すぎて
囲み記事内に納まらなかったけど
ストーリーパートが欠番でもいいよね

SHINgakki 18 extra+.jpg


ここまで読まれた方ならイリンクスサイクルの最適化をどうしてもやってしまう対称性無意識である。
名作は音に悪いものなし
プルトップを引くように逆算・検算すれば名作ゲームは音から作る
後に名作と呼ばれるほどそこまで作り込んでいたら自然とサウンドデザインしてしまっている
手抜かりが「音」になってしまう
「音」に出てしまう
私が たかがゲームにこのように心血を注がないと思っているのか？
ビデオゲームのシュトルム・ウント・ドラングを目指す
赤鬼じゃなくて青鬼なのは『泣いた赤鬼』でいうところ、私は桜井政博さんの青鬼だから

こうして音の鬼になったから
ストーリーパートが欠番でも　いいよね

SHINgakki19+.jpg

ウルトラ7みたいな

link

非 Fliptoon 正対版

nashi

あり思第五巻 連載電書01

著　者　　五島千尋

制　作　　Puboo
発行所　　デザインエッグ株式会社